

統合医療で がんに克つ



特集 食事(栄養)療法により、 がんはどこまで改善できるか

ビタミンCの経口摂取について—柳澤厚生医師に訊く
新しく開発された国産のリポ・カプセルビタミンCの臨床効果
柳澤厚生 国際オーソモレキュラー医学会会長

「ケトン食」によるがん治療
ケトン食でがんの進行が止まりQOL(生活の質)が維持
矢山利彦 Y.H.C. 矢山クリニック院長

がんになった私自身が試した食事療法と実際の治療
吉村尚美 クリニック真健庵院長

各臓器や細胞の1つ1つを協調して働かせるために
—食事、睡眠、便通に注意し三位一体をはかる
市川恒次 市川内科電力ビルクリニック院長
市川嘉子 市川内科電力ビルクリニック分子栄養学部門長

特別インタビュー

私のがん治療
文京クリニック 倉根修二院長に訊く
がんとの闘いは総力戦——。患者の目線で考えてくれる
医師のセカンドオピニオンを受けることを勧めたい

シリーズ

医療の現場から
船橋ゆかりクリニック
寺田伸一院長に訊く
最新の免疫細胞療法・点滴療法を駆使して
がん治療に挑む
—クリニックを開業し、自身が目指す統合医療を実践

癒しの空間

—連載 83 回—

地球を救う 癒しの植物
ニームのある暮らし

国連ではニームを『今世紀最大の贈り物』と絶賛

東京都渋谷区道玄坂にあるNPO法人日本ニーム協会のオフィスに入ると、都内のビジネス空間なのに、何だかとてもないエネルギーを感じます。窓辺を彩る、数本のすらりとした植物の影響がもたせません。とはいえ、見たこと



NPO法人日本ニーム協会会長
国際教育支援ボランティア組織
サバジャパンクラブ代表
稲葉 眞澄さん

取材・文 ● 宮西ナオ子
フリーライター

のない樹木です。

「これがニーム (NEEM) の木ですよ」と稲葉眞澄会長。写真で見ると大木とは違い、美しい観葉植物のようなたたずまいがさわやかです。「熱帯、亜熱帯地方では、さんさんと太陽があたる大地で、大きく成長する常緑樹です。木陰では、灼熱の暑さをしのげる、ありがたい木なのです。お釈迦様もこの木

の下で瞑想をしたの
でしょう」

インド、ミャンマーをはじめとする東南アジアから中近東に自生し、古代から神や女神が宿る「神秘の樹木」として崇められてきました。センダン科アザダイラクタ属、学名は「アザダイラクタ・インディカ」。

「ニームは地球上で最も古くから、広範で使用されてきたハーブの一種です。人類の歴史の黎明期から、人々はニームの木を利用してきました。樹皮、種子、実や葉などすべてに薬効があるとされ、「ミラクルニーム」といわれてきたのです。その治療特性は最古のサンスクリット文書に見られ、インドの伝承医学、アーユルヴェーダでも「神の薬」として珍重されています」

昨今では、アフリカのスーダンで、ドイツの昆虫学者がイナゴの大群に襲われたとき、多くの樹木や野菜類が食べつくされたのに、ニームだけは残ったのを不思議に思っ研究を開始したといえます。「樹木全体に含まれる苦味の成分「アザダイラクチン」が成虫の食欲



「神秘の樹木」として崇められてきたニームの木

を減退させ、虫の卵の孵化や変態を防ぐだけでなく、忌避効果も持ちます。

加えて種子から抽出されるニームオイルは草食・吸汁昆虫をはじめとしてハダニ類、ナメクジなどに作用し、食品や飲食店のゴミブリーチにも効果があります。農薬や化学物質を使いたくない人には朗報ですね。さらにすごいことは、ミツバチやミミズなどには無害なのです」

農作物に繰り返し使用しても、哺乳類に対してはほとんど無害。自然環境のサイクルに影響を与えないというスグレモノ。現在では、有機農業での防虫対策をはじめとして、医療分野での各研究も。

「ニームには多くの種類がありますが、人間が生葉で食べたり、お

茶にして飲んだりしても害がなく安全です。まさに薬効に優れる万能薬ともいわれます。研究により、抗ウイルス作用、殺菌消毒作用、解熱作用、抗炎症作用、抗潰瘍作用、抗菌作用などの効能が証明された成分を含んでいることもわかりました。

たとえば、がんの予防、皮膚病の治療、皮膚病の予防、糖尿病の予防、マラリア対策、デング熱、伝染病などなど、昔から使われてきたのです。

もともと国際的なボランティア活動などをしてきた稲葉会長が、ニームに出会ったのは1998年、ラオスでのこと。

「ラオスに建設した学校の引渡しに立ち会ったとき、ニームのことを知りました。地球が産んだ宝物、多くの人に伝えたいと思ってニームの普及を目指したのです。」

こうして2001年には、NP



ニームティー

法人ニーム協会を発足し、「人間と自然との共生」をテーマに、人々の健康と健全な社会環境づくりを目的に活動を開始しました。

2004年からは、国際連合工業開発機関（UNIDO）の協賛を得、インドの学校建設、井戸掘り、溜池作り、植林プロジェクトをスタートさせました。

また2006年にはカンボジアに日本ニーム協会支部をスタート。ほかにもミャンマー、フィリピン、ケニア、セネガルなどでのプロジェクトを進めながら、各国のニームの現状、特性の差異などを研究、発展途上国への社会貢献を続けています。

「すでに多くの方が声を大にして化学物質による環境汚染について問題提起しています。しかし解決をする糸口がなかなか見つからなかったと思います。今、20世紀最大の自然の恩恵といわれるニーム



「ニームは地球を救う」

によって、今後、多くの可能性を見出せるのではないだろうか？」
知れば知るほど、研究すればするほど、ニームは、私たちの健康と自然環境の保全に欠かせないと考えられるといえます。

「そこで私たちは今後もニームに関する情報を発信していきたいです。化学薬品に代わるものとしてのニームの使用助言や支援協力、生産農家や消費者などのネットワーク



ニームを使った製品の数々



ークの構築、ニームを使った農法をインドやカンボジア、フィリピンなどで行う国際協力、ニーム関連商品の紹介などをしていきたい。夢がどんどん具現化していきます」

国連では、ニームのことを「今世紀最大の贈り物」と絶賛していますが、地球規模での癒しの空間を提供してくれるでしょう。今後の展開が楽しみです。

お問い合わせ

●特定非営利活動法人日本ニーム協会

東京都渋谷区道玄坂2丁目15番1号 ノア道玄坂311

TEL: 03-5784-3425

FAX: 03-5784-3429

E-mail:

info@nihon-neemkyokai.com

ホームページ:

http://www.nihon-neemkyokai.com/

みやにし・なおこ

生薬学博士、ライタリー・エッセイスト、インクビニアー、女性学専攻研究家、博士（総合社会文化）。主な著書には『劇入路開く』『生きる前の7分間』『このある暮らし』など。



2014年「東久」
『ニーム文化』
http://naoko-nym.com